仕事が楽しい人Ｆｉｌｅ．６６：神戸善幸さん（専門学校教員）

◆生徒の味方は担任しかいない

第６６番目の仕事が楽しい人は、専門学校教員の
神戸善幸さんです。

神戸さんが担当するのは、簿記、販売士、ファイナンシャルプランナーの３科目。
昨年の１０月からこの職に就き、今年の４月に夜間の部の担任になりました。
勤務する学校には“働きながら学ぶ”制度があり、夜間の部にはこのコースを選択した生徒が通ってきます。
神戸さんが担任する生徒の人数は、３０名。
彼ら・彼女らの希望に叶う企業に就職させることを自身の使命として、生徒の指導をしています。
その中で、神戸さんは態度教育に拘っています。
その一例が、報連相。
授業を休むのは致し方ない。
しかし、欠席届を事前に提出してこないのは、社会人としてのマナー違反。
神戸さんは、この当たり前の行為ができるようになるまで、粘り強く指導します。
ところが、何回注意しても、事前に連絡をしてこなかったり、時には、連絡はしてはくるものの、メールで、しかも、毎回同じ文章をコピペで送ってくるような生徒も存在します。
このような場合に神戸さんは、生徒が自分に非があったと認めるまで、厳しい指導を繰り返します。
それは、“一事が万事”と言われるように、 報連相の基本ができないようでは、他者から信頼され、喜んでもらえるような仕事ができないから。

私は、採用面接に応募してきた人が、連絡なく、面接をすっぽかしたり、面接後に突然、電話がつながらなくなる。こんな由々しき出来事が増えている傾向に眉をひそめていたので、神戸さんの話に、大きく頷いていたのですが、神戸さんから「受け入れる企業にも、同じレベルの問題があるんです」と切り出され、偏った見方をしていた自分に気づかされました。
受け入れ企業の中には、公欠という制度を利用して、多頻度に渡り生徒に残業を課すことがあるのだそうです。
このようなケースが生じた場合に神戸さんは、社員として働いている生徒への接し方や仕事の与え方についての改善をお願いしに、企業を訪問します。
生徒への指導だけではなく、企業との調整役も担っている神戸さんの仕事はまるで、“マネジャー”。
生徒は授業にも増して、働く企業からの影響も強く受けるので、企業と接点を持ちながら生徒を指導するのは、ある意味、最も重要な役割なのかもしれません。
こんな思いを浮かべながら話を聞いていると、神戸さんから、
「平堀さん、夜間部の生徒は朝６時には起床し、８時から１７時まで仕事。１８時から２１時３０分まで授業を受け帰宅するという、かなりハードな生活をしています。ですから、彼ら・彼女らが、時たま、音を上げたい気分になり、報連相のような基本行動に手を抜いてしまう気持ちもわかるんですよね。ほんの数カ月前は高校生だったわけですし」と、生徒を慮る言葉が・・・。
そして、
「生徒の味方は担任しかいないんですよね」と、
神戸さんが、ポツリとつぶやきました。
その後、満面の笑みになり、
「平堀さん、私ね、担任に就任した４月から、毎月、その月に誕生日を迎える生徒に、お祝いの色紙を書いて贈ると決めて実行したのですが、５月には、クラスのリーダーがこのお祝いを率先してやってくれるようになって、７月の私の誕生日には、サプライズで、生徒全員が私にも同じお祝いをしてくれたんです」
「自主的に、してくれたことが、ものすごく嬉しくて・・・」

神戸さんの教育に込める思いが、自主性を育むことにありそうです。
続きの、「いい先生（人）との巡り合えるのは、“運”ではなくて、“生きる姿勢”」をお読みいただき、神戸さんが教育に目覚めた原点をご確認ください。

◆神戸さんが大切にするキーワード
是々非々
　良いモノは良いし、ダメなものはダメ。
　特にダメなものはダメとちゃんと伝える重要性を、元上司に教えていただきました。

◆神戸さんのパワー○○
金八先生を観る

金八先生をＤＶＤに撮りダメして、ここぞというタイミングで観て金八先生の教えを呼び起こします。

◆神戸さんのコツコツ
全日本吹奏楽コンクール課題曲集のＣＤと楽譜を買い続けています。

◆いい先生（人）とめぐり合えるのは、“運”ではなくて、“生きる姿勢”

神戸さんが、将来先生になりたいとの思いを抱いたのは、小学校４年生の頃。
当時の担任の佐々木先生から影響を受けて・・・、なのですが、神戸さんは、中学校でも、高校でも、とにかくいい先生にめぐり合えたのだそうです。
神戸さんが友人にこのことを話すと、大概は、「自分はそんなにいい先生に出会えていない」との答えが返ってくるので、そのたびに「自分には先生とのめぐり合い運がある」と思うのだそうです。
ところが、私は神戸さんの話を聞いていて、運ではなくて、“生きる姿勢の良さ”に起因しているとの結論を導き出しました。
その根拠となる神戸さんの出来事、その１は、
小学生の頃、いじめで不登校になった生徒がいた。
この友だちの不登校を直そうと、担任の先生が数々の対策を講じた。
神戸さんは、その一環として、この友だちの家に毎朝迎えに行った。

その２
神戸さんが中学生のころ、ある先生が、学校のペンキ塗りを自主的に始めたのを知り、神戸さんも自主的に手伝った。５人の仲間で続けていたら、奉仕部ができた。

その３
高校では商業科を選択。教え方の上手な先生に感化されて、簿記を習得。
３年生の時に、簿記検定１級を、校内で神戸さんだけが合格。
商業科は、簿記３級を取得しないと卒業できないため、神戸さんは、放課後に補習教室を開講。
１０人ほどの友だちに簿記を教え、全員が卒業した。

その４
専門学校の教員になる前の仕事は、飲食系企業のマネジャー。
大学に進学するまで、教員を目指していたが、ファミリーレストランでアルバイトをすると、飲食の仕事の面白さに目覚めた。そして、後輩を教育指導する機会が増えてきた。教育は、学校でなくても実践する場があるとわかり、そのまま飲食業界に就職。キャリアを積んでそこそこの地位と収入を得られるようになったのだが、そもそもの夢を実現させようと、現在の専門学校に応募。
面接の模擬授業では、３分経過した時点で面接官から「もう、大丈夫です」と言われ授業が中断。

ダメだと思ったが、幸運にも合格。
ところが、採用が決まってから、給与が激減する現実に心が揺れる。
自分でやりたい仕事はなんなのかと自問自答した結果、入社を決意した。

その５
児童養護施設のボランティアを開始。
小学校２年生の男の子に、週に１回の頻度で勉強を教えている。

この１から５のエピソードに触れて、みなさんいかがでしょう。
神戸さんは、いい先生にめぐり合える“運が良かった”のでしょうか。
それとも、“生きる姿勢が良かった”のでしょうか。

神戸さんが先生になりたいとの思いを抱いたきっかけとなった、小学校４年生の時の担任の佐々木先生に、「神戸君は、歌が好きなんだから合唱団に入れば」と促され、入部。
最初にコンクールで歌った歌の題名は、“像列車がやってきた”。
この歌が出来た背景を詳しく説明する神戸さん。
（太平洋戦争に関連した、名古屋の東山動物園にまつわるエピソード）
この話す姿から、合唱コンクールで歌う歌だと一言で片づけられないほどの思いを入れて、歌に向かい合った神戸さんの純真さが、ひしひしと伝わってくるのです。

今回の取材を通じて、
いい先生（人）とのめぐり合えるのは、“運”ではなくて、“生きる姿勢”にある。
という真理を、神戸さんから教えていただきました。

◆神戸さんのプロフィール
職業：専門学校教員
所属：東京商科・法科学院専門学校（http://www.tokyo-nissin.ac.jp/）

◆専門学校教員とは？
（13 歳からのハローワーク公式サイトから抜粋しました）
専門学校とは、専門課程を置く専修学校の一般的な呼び名。専修学校の教育分野は多種多様だが、いずれも専門的な知識や技術を教える学校であり、そこで学生を指導・教育するのが教員の役目である。社会ですぐに役立つ実践的な教育を行う必要があるため、自身が担当する専門分野の新しい技術や業界動向を踏まえた指導力が求められる。生徒の多くは具体的な職業やキャリアアップの目標を持っている上、年齢も経験もさまざまな生徒を相手にするケースが少なくない。そのため、生徒一人ひとりの適性や習得力を見極めながら、卒業後の就職を視野に入れた指導やサポートが重要である。

◆専門学校教員に求められる能力
生きる姿勢：純真に主体的に生きる力
実務経験：社会の実情に則って教科教える力
専門技能：難しい理論も簡単に理解させられる技能
包容力：ちょっとやそっとのことでは動じない心
厳しさ：ダメな事はダメと指摘する言動力